



平成21年11月期
第2四半期決算説明会



玄品グループ
株式会社 関門海

<http://www.kanmonkai.co.jp>

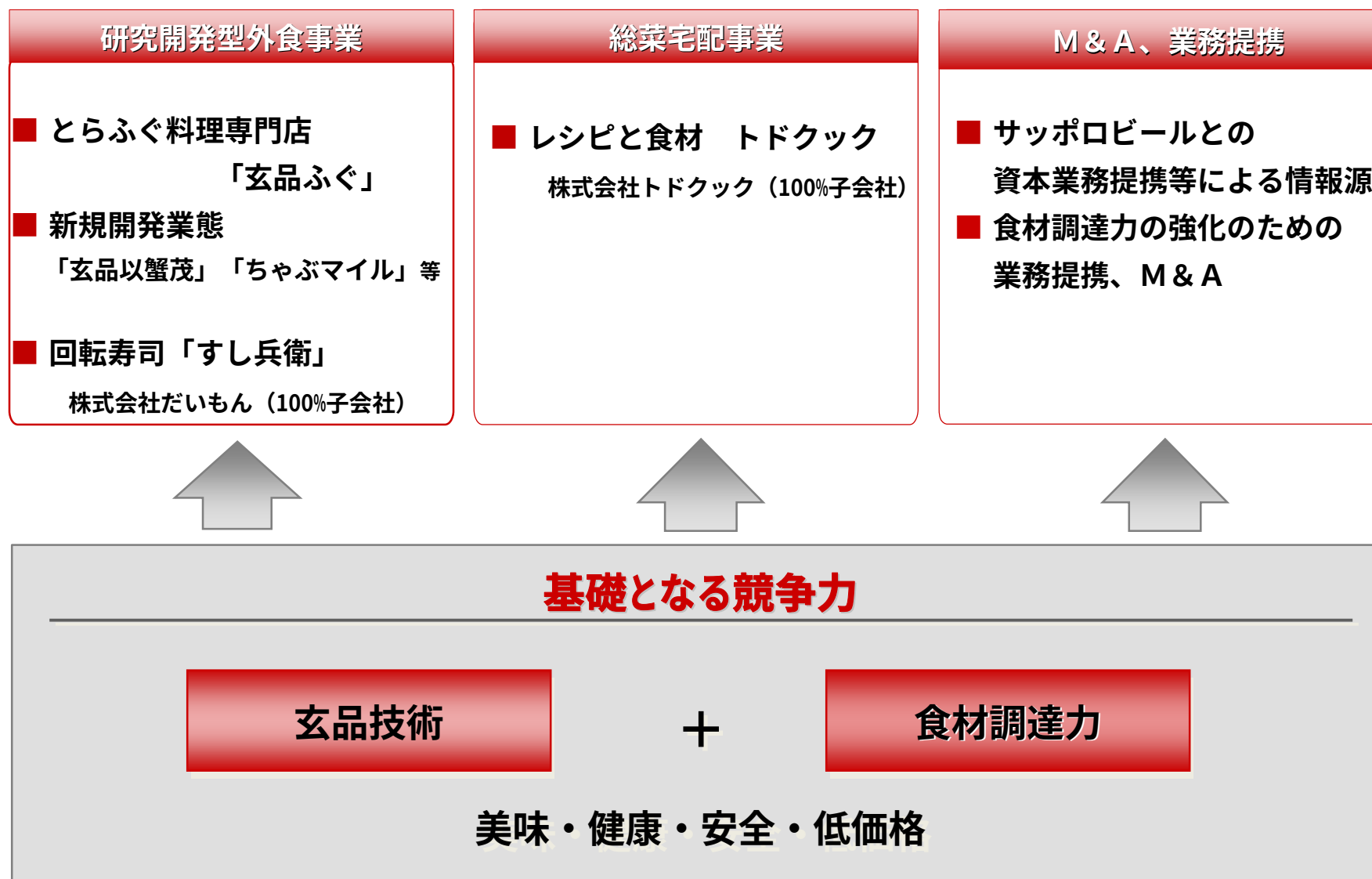
会社概要／玄品グループ

Company Summary

■ 商 号	株式会社 関門海 KANMONKAI Co.,Ltd.
■ 設 立	平成元年 5月
■ 代 表 者	代表取締役会長兼社長 グループCEO 谷間 真
■ 子 会 社	株式会社トドック（※1） 株式会社だいもん 株式会社富士水産 ※1．株式会社カネジと株式会社アクト・デリカが平成20年12月1日付で合併し、商号を株式会社トドックへ変更いたしました。 ※2．有限会社しまや酒店の保有株式の90%を平成21年6月30日付で譲渡いたしました。
■ 事業内容 (セグメント)	・研究開発型外食事業 ・総菜宅配事業 ・食材卸その他の事業
■ 従 業 員	179名（459名）※（ ）内はグループ従業員数
■ 店 舗 数	グループ全体：143店舗（期末日現在） ・玄品ふぐ：116店舗 ・その他：27店舗
■ 資 本 金	3億2,406万円（平成21年6月末日現在）

ビジネスモデル

Business Model



トピックス

Topics

上半期

平成20年12月

- 株式会社カネジと株式会社アクト・デリカが合併し、「株式会社トドクック」に社名変更

平成21年1月

- トドクックレシピ版・ストア版カタログを創刊。わけあり食材の取扱開始。

2月

- トドクックの営業所を統廃合することによりコストダウンを実施
- 農業生産法人株式会社ぐろーばる農園を設立

5月

- 株式会社富士水産での自社養殖とらふぐの出荷を開始

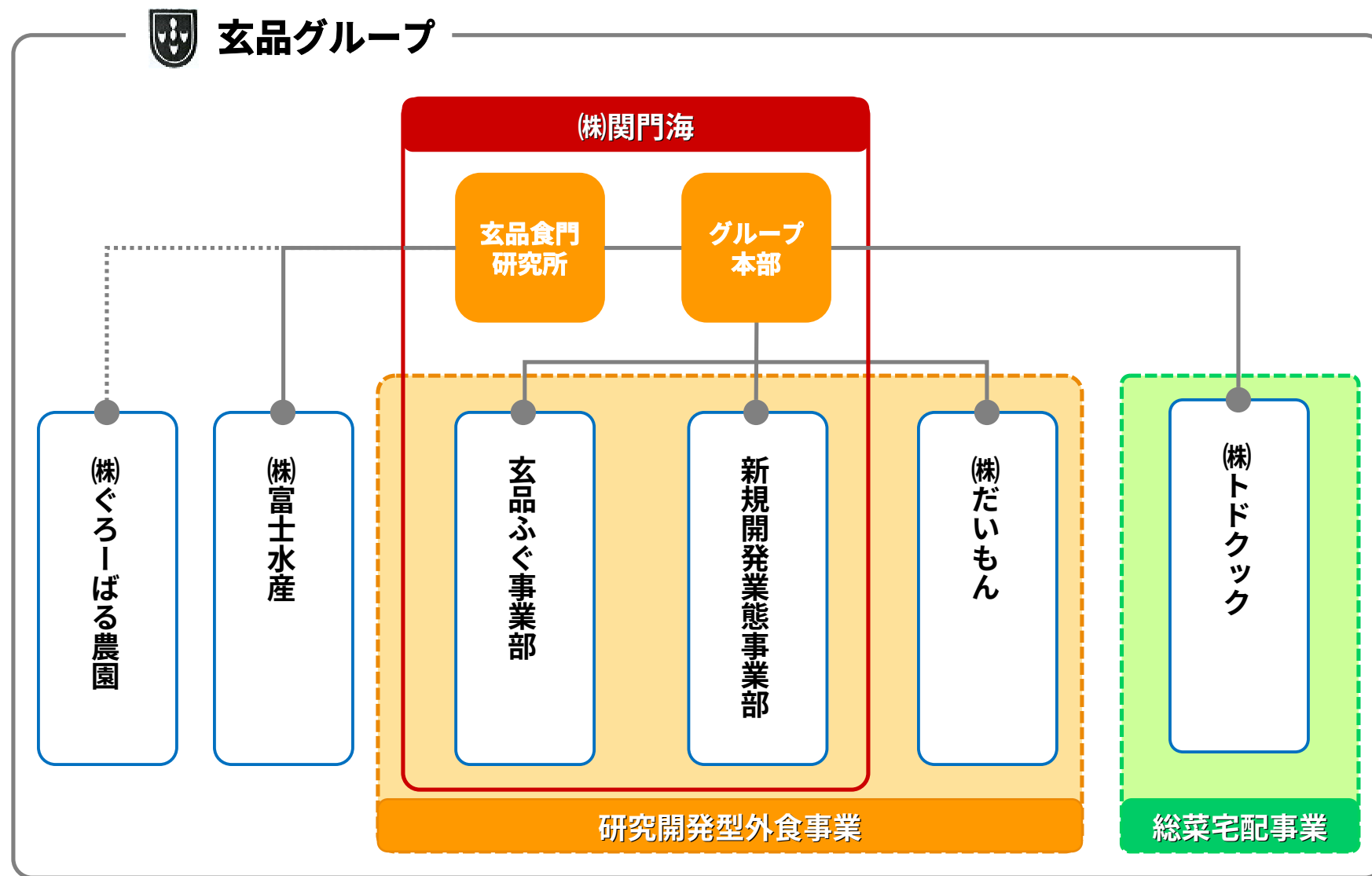
下半期

6月

- 「玄品ふぐ」にて、新メニュー「ふぐしゃぶ新味」と「てっちり赤味」を段階的に導入
- 沖縄において酒販事業を営む有限会社しまや酒店の株式の90%を譲渡

グループ図

Group





平成21年11月期上半期 決算概要

■ 平成21年11月期下半期 計画

決算概要／損益計算書

Accounting Outline

(単位：百万円)

	当第2四半期 累計期間（実績）		当第2四半期 累計期間（計画）		前第2四半期 累計期間（実績）		増 減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比	計画比	前年比
売上高	6,469	100.0%	7,000	100.0%	5,918	100.0%	△530	+550
研究開発型外食事業	4,243	65.6%	4,550	65.0%	4,158	70.3%	△306	+85
総菜宅配事業	1,967	30.4%	2,200	31.4%	1,677	28.3%	△232	+290
その他の事業	258	4.0%	250	3.6%	83	1.4%	+8	+175
売上原価	2,599	40.2%	2,800	40.0%	2,018	34.1%	△200	+580
売上総利益	3,870	59.8%	4,200	60.0%	3,900	65.9%	△329	△29
販売費及び一般管理費	3,434	53.0%	3,700	52.9%	3,205	54.2%	△265	+228
営業利益	436	6.8%	500	7.1%	694	11.7%	△63	△257
営業外収益	20	0.3%	15	0.2%	16	0.3%	+5	+3
営業外費用	51	0.8%	55	0.8%	45	0.8%	△3	+6
経常利益	404	6.3%	460	6.6%	664	11.2%	△55	△260
特別利益	2	0.0%	—	—	85	1.5%	+2	△83
特別損失	75	1.2%	80	1.1%	89	1.5%	△4	△13
税金等調整前当期純利益	331	5.1%	380	5.4%	661	11.2%	△48	△329
法人税等	164	2.5%	165	2.3%	296	5.0%	△0	△131
当期純利益	166	2.6%	215	3.1%	364	6.2%	△48	△197

- 連結売上高**
 - ・計画比 7.6%マイナス
 - ・前年比 9.3%増
 - 研究開発型外食事業の売上は、既存店売上高の低下が要因
 - 総菜宅配事業の売上未達は、統合による顧客離れが要因
- 売上総利益率**
 - ・計画比 0.2ポイントマイナス
 - ・前年比 6.1ポイントマイナス
 - FC店舗の増加、総菜宅配事業、その他の事業の構成比の上昇が要因
- 販売費及び一般管理費**
 - ・計画比265百万円マイナス
 - 総菜宅配事業の統合を中心としたコスト削減
- 営業利益**
 - ・計画比63百万円マイナス**経常利益**
 - ・計画比55百万円マイナス
- 特別損失 75百万円**
 - 店舗閉鎖損失52百万円、総菜宅配事業の営業所閉鎖損失23百万円
- 当期純利益**
 - ・計画比48百万円

決算概要／セグメント別

Accounting Outline

(単位：百万円)

	当第2四半期 累計期間（実績）		当第2四半期 累計期間（計画）		計画比増減		前第2四半期 累計期間（実績）	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
研究開発型外食事業	4,243	672	4,550	740	△307	△68	4,158	959
玄品ふぐ事業	3,159	669	3,350	720	△191	△51	3,741	967
その他業態	1,084	3	1,200	20	△116	△17	417	△8
総菜宅配事業	1,967	△24	2,200	△20	△233	△4	1,677	△71
その他の事業	258	17	250	10	+8	+7	83	26
合 計	6,469	665	7,000	730	△531	△65	5,918	913
全社共通費用・消去	—	△229	—	△230	—	+1	—	△219
連 結	6,469	436	7,000	500	△531	△64	5,918	694

1 研究開発型外食事業

- 玄品ふぐ
 - ・売上高は、店舗売上低下及びF C化による直営の売上減少が要因
 - ・営業利益も売上高低下に伴い、計画比51百万円のマイナス
- その他の業態
 - ・売上高は、回転寿司「すし兵衛」の計画比未達が主な要因

2 総菜宅配事業

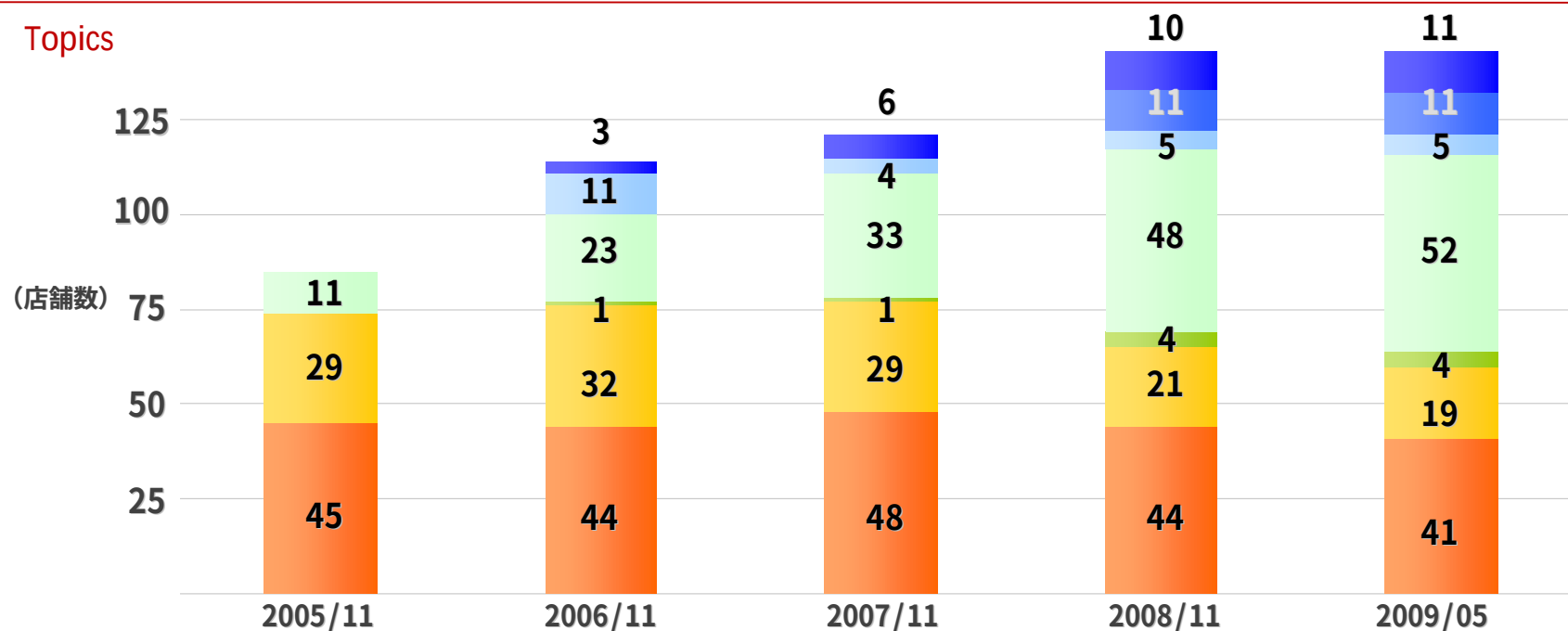
- ・統合によるコストダウンにより、売上高は未達ではあるが損失は最小限に
- ・第2四半期から黒字化

3 全社共通費用・消去

- ・前年よりのれん償却費分が増加

トピックス／店舗推移グラフ

Topics



項 目	2005/11	2006/11	2007/11	2008/11	2009/05	前期末比
玄品ふぐ	85	100	111	117	116	△1
■ 関東直営	45	44	48	44	41	△3
■ 関西直営	29	32	29	21	19	△2
■ その他直営	—	1	1	4	4	0
■ F C	11	23	33	48	52	+4
■ 玄品以蟹茂	—	11	4	5	5	0
■ すし兵衛	—	—	—	11	11	0
■ その他	—	3	6	10	11	+1
合 計	85	114	121	143	143	0

決算概要／貸借対照表①

Accounting Outline

(単位：百万円)

	当第2四半期末	前期末		前第2四半期末	
	金額	金額	増減	金額	増減
流動資産	4,069	4,431	△361	3,695	+374
現金及び預金	1,009	1,145	△136	1,049	△40
売掛金	502	552	△50	393	+108
商品及び製品	1,985	2,061	△75	1,727	+258
仕掛品	182	160	+22	63	+118
原材料及び貯蔵品	79	62	+16	54	+24
その他	335	466	△130	414	△78
貸倒引当金	△25	△18	△7	△8	△16
固定資産	4,521	4,706	△185	3,673	+847
有形固定資産	2,653	2,806	△153	2,572	+81
建物及び構築物	1,825	1,951	△126	1,784	+40
その他	828	854	△26	787	△40
無形固定資産	666	675	△8	108	+558
のれん	549	574	△24	3	+546
その他	116	100	+16	104	+11
投資その他の資産	1,201	1,224	△22	993	+207
資産合計	8,591	9,137	△546	7,369	+1,221

1 商品及び製品 1,985百万円

●主に「玄品ふぐ」で使用する
とらふぐ。

今期は在庫投資を12月にも行った
事と店舗売上の低下により前期比
75百万円の減少にとどまっている。

今秋のとらふぐ在庫投資により
調整。

2 仕掛品 182百万円

●主に養殖中のとらふぐを計上して
いる。順調に生育中。

3 有形固定資産 2,653百万円

●新規出店を抑制しているため、
減価償却により前期末比153百万
円減少

決算概要／貸借対照表②

Accounting Outline

(単位：百万円)

	当第2四半期	前期末		前第2四半期末	
	金額	金額	増減	金額	増減
流動負債	3,901	4,415	△514	2,963	+937
支払手形及び買掛金	376	491	△115	293	+82
短期借入金	1,180	1,450	△270	300	+880
1年以内返済予定長期借入金	1,333	1,241	+92	1,188	+145
1年以内償還予定社債	24	40	△16	32	△8
未払金	448	679	△231	470	△22
未払法人税等	285	194	+91	335	△50
賞与引当金	58	23	+34	97	△38
その他流動負債	195	294	△99	245	△50
固定負債	3,270	3,315	△45	2,547	+722
長期借入金	2,967	3,035	△68	2,228	+738
その他固定負債	302	280	+22	318	△15
負債合計	7,171	7,731	△559	5,510	+1,660
純資産	1,419	1,406	+13	1,858	△438
資本金	323	323	0	323	0
資本剰余金	432	432	0	432	0
利益剰余金	933	827	+106	1,099	△165
自己株式	△287	△187	△100	—	△287
その他	17	9	+7	2	+14
負債・純資産合計	8,591	9,137	△546	7,369	+1,221
有利子負債	5,504	5,766	△262	3,749	+1,755

1 有利子負債 5,504百万円

●主に短期借入金の減少により、262百万円の減少

2 自己株式 287百万円

●既存株主からの買取により100百万円増加

決算概要／キャッシュ・フロー計算書

Accounting Outline

(単位：百万円)

	当第2四半期	前第2四半期	増減額	前期
営業活動によるキャッシュ・フロー	284	1,229	△944	857
税金等調整前当期純損益	331	661	△329	342
減価償却費等	206	231	△24	505
たな卸資産の増減額	36	242	△206	△143
長期前受収益の増加額	—	206	△206	187
法人税等の支払額及び還付額	△171	0	△172	△37
その他	△117	△113	△4	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	5	△162	168	△844
有形固定資産の取得による支出	△105	△112	7	△340
その他	110	△49	160	△503
財務活動によるキャッシュ・フロー	△373	△964	591	185
短期借入金の増減	△270	△800	529	302
長期借入金の増減	24	△183	208	128
自己株式の取得による支出	△101	—	△101	△187
配当金の支払額	△59	—	△59	△61
その他	33	19	14	3
現金及び現金同等物の増減額	△83	102	△185	198
現金及び現金同等物の期首残高	1,092	894	198	894
現金及び現金同等物の期末残高	1,009	996	12	1,092

1 営業活動によるキャッシュ・フロー 284百万円（前年比△944百万円）

- 税金等調整前当期純利益の減少
△329百万円
- たな卸資産の減少額 △206百万円
- 前期における長期前受収益による収入
△206百万円
- 法人税等の支払額の増加 △172百万円

2 投資活動によるキャッシュ・フロー 5百万円（前年は△162百万円）

- 新規出店、養殖設備等による有形固定資産の取得による支出 105百万円
- 差入保証金の回収による収入 94百万円
- 有形固定資産の売却による収入 66百万円

3 財務活動によるキャッシュ・フロー △373百万円（前年は△964百万円）

- 有利子負債の減少、自己株式の買取、配当金の支払による

■ 平成21年11月期上半期 決算概要

平成21年11月期下半期 計画

計画／研究開発型外食事業

Plan

1 玄品ふぐ ／ 上半期までの状況

9月以降の景気悪化により、既存店売上高が低下

12月は企業忘年会のキャンセル等の影響で
前年実績を下回った

上半期の既存店前年比は△14.4%と計画から下ブレ

平成21年1月にTVコマーシャルの影響により、
売上は回復したが、再度下降傾向

既存店の業績回復施策が必要

2 玄品ふぐ ／ 下半期での施策

その1．顧客の囲い込み

小型店の場合、200名の常連顧客により
店舗は十分な収益性を確保できる

玄品ふぐは高単価業態である
ことから、顧客の囲い込み
を徹底

計画／研究開発型外食事業

Plan

その2．新メニュー・新商品の投入

対応

これまでは「てっちり」
「てっさ」を中心とした
打ち出しに依存

看板メニューは変えない

顧客への間口を拡げつつ
ブランドを維持できる商品企画が必要

1 グランドメニューの変更

6月より、「ふぐしゃぶ新味」、「てっちり
赤味」をテスト導入し、常連顧客に好評

9月にグランドメニューへの導入

を行い、年間での玄品ふぐ
来店回数向上を図る

2 ランチ営業開始（一部店舗）

9月より「ふぐ雑炊」、「ふぐ唐揚げ」をメイン
としてふぐのおいしさを身近に味わって
いただけるメニューを880円から提供

店舗近隣の顧客の取りこぼしを
なくすことで、常連顧客の
増加を図る

2 深夜メニューによる深夜営業開始

ランチ営業と同様に、10月より「ふぐ雑炊」
「ふぐ唐揚げ」をメインとしたメニューを
1,280円（予定）から提供

深夜営業の強化により来店動機の
多様化に対応し、来店顧客の
増加を図る

計画／研究開発型外食事業

Plan

その3．宴会営業の開始

9月より繁忙期の宴会営業を開始し、ピークの売上を最大化する

3 玄品ふぐ ／ 下半期の出店

直営店舗

北海道2号店（9月OPEN）

FC店舗

1～2店舗の出店を予定

4 すし兵衛

商品の見直しを早急を実施



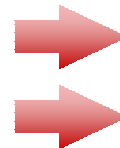
品質・顧客訴求力の向上

コストダウン

5 その他の業態

時代の流れに合わせたメニュー改変

出 店 計 画



売上が向上

2店舗を計画

計画／総菜宅配事業・その他の事業

Plan

1 総菜宅配事業

- 月額50百万円のコストダウンを達成



黒字化を実現

- 売上が計画より下振れ



現状では

月額20百万円の黒字計画が、月額5～10百万程度

- 新規顧客の開拓が必要



経営資源を活用した商品企画

2 その他の事業

しまや酒店

6月末にしまや酒店の株式を譲渡

譲 渡 先



現社長及び地元企業

計画／連結損益計算書

Plan

(単位：百万円)

	前期（実績）		当期修正計画			
	金 額	百分比	金 額	百分比	増 減	前期比
売上高	11,313	100.0%	11,300	100.0%	△13	△0.1%
研究開発型外食事業	7,393	65.3%	7,100	62.8%	△293	△4.0%
総菜宅配事業	3,742	33.1%	3,850	34.1%	+107	+2.9%
その他の事業	178	1.6%	350	3.1%	+171	+96.0%
売上原価	4,219	37.3%	4,600	40.7%	+380	+9.0%
売上総利益	7,094	62.7%	6,700	59.3%	△394	△5.6%
販売費及び一般管理費	6,655	58.8%	6,360	56.3%	△295	△4.4%
営業利益	438	3.9%	340	3.0%	△98	△22.5%
営業外収益	35	0.3%	35	0.3%	△0	△1.4%
営業外費用	99	0.9%	110	1.0%	+10	+10.2%
経常利益	374	3.3%	265	2.3%	△109	△29.2%
特別利益	134	1.2%	—	—	△134	△100.0%
特別損失	166	1.5%	110	1.0%	△56	△34.0%
税金等調整前当期純利益	342	3.0%	155	1.4%	△187	△54.7%
法人税等	186	1.6%	70	0.6%	△116	△62.5%
当期純利益	155	1.4%	85	0.8%	△70	△45.5%

計画／セグメント

Plan

(単位：百万円)

	当初計画		今回計画		前期（実績）		前年増減		前年対比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
研究開発型外食事業	7,400	755	7,100	705	7,393	1,029	△293	△324	△4.0%	△31.5%
玄品ふぐ	5,150	730	5,000	660	5,656	893	△656	△233	△11.6%	△26.2%
その他業態	2,250	25	2,100	45	1,479	△60	+620	+105	+41.9%	△174.7%
店舗譲渡による収益	—	—	—	—	257	196	△257	△196	△100.0%	△100.0%
総菜宅配事業	4,550	120	3,850	20	3,742	△171	+107	+191	+2.9%	△111.7%
その他の事業	550	25	350	35	178	25	+171	+9	+96.0%	+39.3%
合 計	12,500	900	11,300	760	11,313	883	△13	△123	△0.1%	△14.0%
全社共通費用	—	△450	—	△420	—	△444	—	+24	—	△5.5%
連 結	12,500	450	11,300	340	11,313	438	△13	△98	△0.1%	△22.5%